

富山のデザイン情報誌

offer

<http://www.toyamadesign.jp/>

vol.41

Contents

商品開発事例	02
「RED&WHITE」シリーズ (株)織田幸銅器×鈴木啓太	
メイド・イン・トヤマのデザイン展	03
概要	
デザインシンポジウム 「デザインカンパニータカレムノスとデザイナー達」	
講師 高田博／澄川伸一／寺田尚樹	
基調講演 「デザインとエンジニアリングのマッチングスキーム」	
講師 山中俊治	
デザインセミナー	09
「特色ある地域のものづくりとデザイン」	
講師 柴田文江／澄川伸一／橋田規子	
「これからの建築と建材」	
講師 千葉学／赤松佳珠子	
富山県商品開発研究会	13
概要	
経営者のためのデザイン活用セミナー 「Good Design から Success Designへ」	
講師 桐山登士樹	
デザイントレンド速報 「メン・エ・オブジェ2014、アンビエンテ2014」	
講師 桐山登士樹	
ものづくり企業デザイン活用セミナー	16
「テクノロジーとデザインの融合で社会を創造する」	
講師 石橋勝利	
「3Dプリンターブームはなのか? 3Dプリンターは本当に新産業革命のツールなのか?」	
講師 原雄司	
「クラウドファンディング ～中小企業の夢を実現する最新資金調達術～」	
講師 松崎良太	
富山プロダクト選定事業	19
概要	
2014年度富山プロダクト選定商品	
富山プロダクト選定商品販路拡大調査を実施	
ナイトフォーラム	23
「デザイナー小林幹也の考えている事、実行した事」	
講師 小林幹也	
富山県総合デザインセンター主催の各種イベント	24
2013年度事業報告	25

Product Development

商品開発事例

老舗銅器問屋が提案する純銅のギフトシリーズ

富山県総合デザインセンターでは、企業の商品開発について積極的に支援を行っています。デザイナーとのマッチングやセンターとの共同研究・共同開発、コンペ作品の製品化など、企業の状況に合わせた提案やアドバイスを心がけています。

「RED&WHITE」シリーズ (株)織田幸銅器×鈴木啓太

(株)織田幸銅器(富山県高岡市)が、銅ブランド「RED&WHITE」を立ち上げ、その第一弾として純銅カップを販売したのが、2013年4月のこと。商品は槌目仕上げとマット仕上げの2種類。表側になる純銅の赤色と内側の錫メッキの白銀色が、上品なコントラストになっていて、この配色がブランド名「RED&WHITE」＝「紅白」にもつながっています。

デザインは鈴木啓太氏。元々モスコミュールが銅製のマグカップで飲まれていたことから発想したデザインで、洗練されたフォルムが魅力。さらに、純銅の優れた熱伝導率と保冷性を活かして、飲み物の冷たさが持続する機能性も兼ねそろえています。製造面において、県内外のメーカーに協力を求め、新潟県燕市のメーカーと提携。産地を超えた技術提携によって、「RED&WHITE」は誕生しました。その後も「銅のある生活」という視点から、様々な生活アイテムを開発しています。

同社では本ブランドシリーズの開発には、ギフトとしての完成度を追求することにこだわったと言います。そのため、パッケージについても第1弾は箔押しの筒箱、第2弾は赤い化粧箱にするなど、工夫を凝らしています。今後は個人だけでなく、ホテルやレストランなどの祝いの席で使ってもらえるコントラクトとしての展開も、意欲を見せています。

■株式会社 織田幸銅器
高岡市金屋本町3-34
TEL:0766-24-6154
<http://odakou-douki.co.jp/>



Designer Profile



鈴木啓太氏
PRODUCT DESIGN CENTER

1982年愛知県生まれ。2006年多摩美術大学プロダクトデザイン専攻を卒業後、(株)NECデザイン、イワサキデザインスタジオを経て、2012年4月に「PRODUCT DESIGN CENTER」「THE」を設立。「製造産業と社会との触媒になる」をビジョンに掲げ、一次産業から二次産業まで、国内外の様々な商品開発のプロジェクトに関わっている。近年の代表作には「富士山グラス」がある。

Design メイド・イン・トヤマのデザイン展 Exhibition

企業とデザイナーの 創造的な 出会いを求めて

[期間]9月12日(木)～24日(火) [会場]東京ミッドタウン デザインハブ

東京で初の県内産業とデザイナーとの
デザインマッチング事業となる
「メイド・イン・トヤマのデザイン展」が、
9月12日から13日間にわたって開催されました。
富山県内の企業19社が出展し、首都圏のデザイナー、
バイヤーおよび関連企業を中心とする来場者にその優れた技術や製品、
デザインへの取り組みをPRしました。
併せてセミナーや交流会、デザインシンポジウムが行われ、
多くの参加者を集めました。



出展企業



富山のリソースでヒット商品をつくる
「メイド・イン・トヤマのデザイン」

[期間]2013年9月12日(木)～24日(火)
※会期中無休・入場無料 ※台風のため1日休館
[会場]東京ミッドタウン デザインハブ

マッチング参加企業の紹介展示
デザインセンターの実績紹介など

基調講演
デザインとエンジニアリングの
マッチングスキーム

[講師]中山 俊治(東京大学生産技術研究所 教授)
[期日]9月12日(木)
[会場]インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター

交流会

[期日]9月12日(木)
[会場]インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター
参加者の意見交換を目的に開催

デザインマッチング相談

[期日]2013年9月12日(木)～24日(火)
[会場]インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター
県内企業と首都圏で活躍する
デザイナー等とのマッチングを実施

企業プレゼンテーション

[期日]9月13日(金)～14日(土)
[会場]インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター
マッチングを目的とした出展企業6社による
各社の商品や技術等についてのプレゼンテーション

デザインシンポジウム
デザインカンパニー
タカタレムノスとデザイナー達

[講師]高田 博((株)タカタレムノス 代表取締役社長)
澄川 伸一(プロダクトデザイナー)
寺田 尚樹(建築家・デザイナー)
[期日]9月24日(火)
[会場]インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター

Design Exhibition

富山のリソースでヒット商品をつくる 「メイド・イン・トヤマのデザイン」

2013年9月、東京ミッドタウン デザインハブにおいて
富山県のデザインの取り組みや県内企業の技術力をPRすることを目的に
企画展「メイド・イン・トヤマのデザイン展」を開催するとともに
県内企業とデザイナー等とのデザインマッチングを実施しました。
今後、県内企業の技術力に最先端のデザインを取り入れた
高付加価値の商品開発につなげていきます。



13日間で延べ2559人の
来場者を集めます

県総合デザインセンターでは、高い付加価値を持つ商品の開発を目的に、県内企業とデザイナーとの出会いの場を作るデザインマッチング事業を長年にわたって続けています。今回の「メイド・イン・トヤマのデザイン」は、その舞台を富山から初めて首都圏に移して行われました。

会場となった東京ミッドタウン(東京都港区赤坂)のデザインハブでは、仲見世通りをイメージした通路の両側に出展企業のブースが並びました。来場者は歩きながらブースを覗き、気になった技術商品については、立ち止まって出展企業の担当者から詳しく説明を聞いていました。

ブースは企業の訴求ポイント別に3色に



県総合デザインセンターの主要プロジェクトが展示紹介された。(越中富山お土産プロジェクト)



富山のデザイン力、高い技術力、素材の特性を活かした商品力に、来場者も驚いた様子。来場者、出展企業ともに活発なコミュニケーションが図られた。

色分けされました。赤はデザイン開発に積極的に取り組み、販路開拓を意識した企業のブース、青は自社が持つ素材をデザイナーなどに提供することをめざす企業のブース、緑は技術力を訴求する企業のブースです。

13日間で来場者数は延べ2559名にのぼり、特に建築家、プロダクトデザイナー、バイヤーの方が多く訪れました。富山県にこんなデザインがあったのかと初めて知ったという人が多く、さまざまな業種で優

れた技術や興味深い素材を持つ企業があることに驚いたという声も聞かれました。

デザインマッチングの成果も誕生した

「メイド・イン・トヤマのデザイン」の開催をきっかけとして、首都圏のデザイナーと出展企業とのコラボレーションによるプロジェクトがいくつか進んでいます。アルミニウム建材の製造販売を行う三協立山(株)三協アルミ社は、県総合デザ

ンセンターの桐山デザインディレクターのプロデュースにより、5組の建築デザイナーと事前にマッチング作業を進めてきました。

そのプロジェクトの成果が「住空間ラボ5組の建築家と考える新しい境界とそのエクステリアデザイン」としてまとめられ、10月21日にAXISビル(東京都港区六本木)で発表されました。それぞれの建築家が「境界」について新たな概念を構築し、それに基づく新たなデザインが模型やイメージの形で紹介されました。

出展した19の企業にとって、大きな刺激を得る機会となりました。これをきっかけに富山県と首都圏とのデザインマッチングがさらに進むことが期待されます。

石井知事も会場を訪 れる デザイン行政について 意見を交換

22日には石井隆一富山県知事が会場を視察し、展示内容について説明を受けました。その後大矢県総合デザインセンター所長、(公財)日本デザイン振興会の川上元美会長、(公社)日本インダストリアルデザイン協会の田中一雄理事長、女子美術大学の廣田尚子教授、(株)能作の能作克治社長が、今後の富山県のデザイン行政に



について石井知事と意見を交換しました。

多くの参加者が集 った 基調講演と交流会

初日の12日には、オープニングイベントとしてデザインセミナーが開かれました。

まず県総合デザインセンターの大矢寿雄所長がこれまでのセンターの活動を紹介しました。2015年春には北陸新幹線が開業して富山と東京が約2時間で結ばれることから、富山県のブランド価値、企業価値をさらに向上させていくことが重要で、そのためには「デザイン立県富山」を進め、デザインで産業を元気にして国内のみならず世界に富山県をアピールしていきたいと

決意を語りました。

続いて東京大学生産技術研究所教授の中山俊治氏による講演「デザインとエンジニアリングのマッチングスキーム」が始まりました。中山氏は日産自動車(株)より独立後、フリーランスのデザイナーとして自動改札機や義足など多種多様なプロダクトデザインのプロジェクトをリードしてきました。セミナーの参加者は137名で、数多くの事例を紹介

しながら新しいデザインのあり方について語る中山氏の講演に熱心に聞き入り、質疑応答も活発に行われました。

デザインセミナーに続いて出展企業と来場者の交流会が行われ、122名が集まりました。名刺交換をしたり歓談するなど和やかな雰囲気の中でデザインマッチングを広げる場となりました。



Design Exhibition

メイド・イン・トヤマの
デザイン展

富山のリソースでヒット商品をつくる「メイド・イン・トヤマのデザイン」

出展企業6社がマッチングに
向けて商品や技術をPR

13日と14日には、出展企業6社がデザイナーなどに対して自社の取り組みについてプレゼンテーションを行いました。2日間で延べ61名が参加しました。



(株)スギノマシンによる企業プレゼンテーション

9.13 fri

北陸エステアール協同組合

アパレルから機能素材までを
繋ぐ「編み」技術

中越レース工業(株)

エンブロイダリーレースの
ある暮らし

(株)スギノマシン

「5つの超」と独創の商品開発
～自ら考え、自ら造り、自ら販売・サービスする～

9.14 sat

中越パルプ工業(株)

日本人の心に響く
イノベーション素材 ~竹紙~

新光硝子工業(株)

自然の美の追求
～曲線と色彩の世界～

(株)能作

素材を活かし、デザインで時代を
捉える“能作”のものづくり

基調講演

デザインとエンジニアリングの マッチングスキーム

[講師] 山中 俊治 (東京大学生産技術研究所教授)

[期日] 2013年9月12日(木)

[会場] インターナショナル・デザイン・リージョンセンター

東京ミッドタウン・デザインハブ特別展「メイド・イン・トヤマのデザイン」の併催イベントとして、東京大学生産技術研究所の山中俊治教授を講師に迎えて基調講演を開催しました。デザインとエンジニアの両者の視点を持つ山中教授に、デザインとエンジニアリングをシームレスに繋ぐスキームの実践と今後の展望についてお話をいただきました。



「デザインとエンジニアリングの最先端で人がどう関わるかを、試作品を作りながら解決することが大変。とにかくやってみるという動きが、地方から起こってほしい」と山中氏は強調した

練された関係になるでしょう。

デザインは色や形だけでなく
人と人工物との関わりを創る

プロトタイプは単なる試作や実験機ではなく、ユーザー体験を事前に提示し、技術がもたらすものを共有するためのツールです。開発チームの価値観を共有するだけでなく、社会に開発しているものの意義を訴えてファンを獲得するためにも、プロトotypingは重要な役割を果たします。

デザインが美術の一部である時代は、前世紀の最後の10年間で終わってしまったと思います。デザインとは、ヒトと人工物の関わりや体験のすべてを設計することです。そのことが理解できるエンジニアや経営者を育てていきたいと考えています。



DIAMOND (デザイン: 澄川伸一)

デザインシンポジウム

デザインカンパニー タカタレムノスとデザイナー達

[講師] 高田 博 ((株)タカタレムノス代表取締役社長)

澄川 伸一 (プロダクトデザイナー)

寺田 尚樹 (建築家・デザイナー)

[モデレーター] 桐山 登士樹 (富山県総合デザインセンター デザインディレクター)

[期日] 9月24日(火) [会場] インターナショナル・デザイン・リージョンセンター

自動改札のプロジェクトで ユーザビリティを考えた

20年近く前、自動改札の実用化プロジェクトに参加してプロトタイプ(試作品)を作りました。カードに電波を送って料金などのデータを書き込む技術自体はすでにできていましたが、実験してみると、今と違ってなかなかうまく具合に利用者がカードを改札機に当たれません。

ピッと鳴るまで待つという行為を誘発するために、くぼみをつけたり、傾ける方向を変えたりして実験を繰り返すうちに、当てる部分を手前に傾けて光らせると劇的に改善することが分かりました。このときのプロトタイプの角度は13.5度で、それが今日本全国の自動改札に採用されています。

この実験では、ヒトのふるまいと技術の原型をデザインしたと言えます。色や形を格好よくするだけではなく、ヒトとモノの関係を決めるユーザビリティを考えるのもデザイナーの仕事であるという認識は、1990年代後半あたりから広まっていきました。

ロボットが悩んでいると 見るだけでわかるようになる

その後親指だけで入力する両手親指キーボードの開発に関わりました。最終的に製品化には至りませんでしたが、自分た



15.0%アイスクリームスプーン
(デザイン: 寺田尚樹)

これまで置時計や掛時計を中心に、
数々のデザイナーと商品開発を実践してきた“(株)タカタレムノス”。
デザインシンポジウムでは、タカタレムノスの高田社長と、
共に商品を開発してきたデザイナー澄川氏、
寺田氏の3名を迎えてデザイン事例などが紹介されました。

澄川氏、寺田氏の活動紹介のあと、高田社長から、これまでに商品化した時計の開発当時のエピソードを織り交ぜながら、デザイナーの個性とそれを時計に落とし込むタカタレムノスの関わり方について、また、時計に留まらず、近年寺田氏と取り組むアイスクリームを楽しむためのプロジェクト「15.0%」へ込めた思いや、これから進めたいデザイナーとのマッチングについてお話をいただきました。



数多くの製品づくりに携わってきた山中氏の講演には多くの聴衆が集まり、人の身体と一緒に感のある義足など、最近の成果も数多く披露された

特色ある地域の ものづくりとデザイン

[期日] 2013年10月2日(水) [会場] ウイング・ウイング高岡5F 503研修室
[モデレーター] 桐山 登士樹(富山県総合デザインセンター デザインディレクター)

**地域のものづくりにプロダクトデザイナーたちが関わる時、
大切にしなければならないことは何か。
そして、これからの地場産業はどこに向かい、何を目指していくべきか。
そのための課題の解決策と、地場産業の特性を活かす将来像を語り合いました。**

講師



柴田 文江
Design Studio S 代表



澄川 伸一
澄川伸一デザイン事務所代表



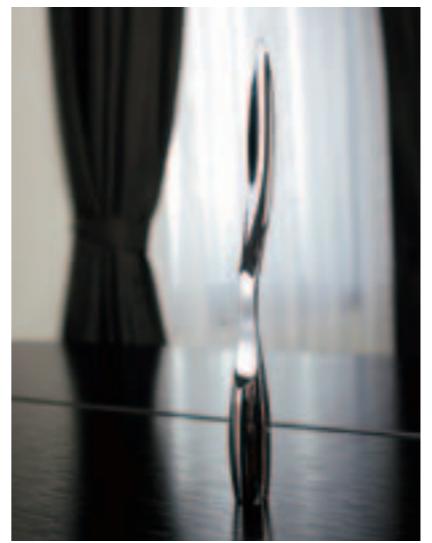
橋田 規子
NORIKO HASHIDA DESING 代表

柴田 ■ 新潟県三条市の包丁メーカー、長野県木曽町の木工メーカーとおもちゃ商品のデザインに取り組んでいます。地域の企業と一緒に仕事をすると、人との関係が深くなる。だから、クライアントが持っているデザイン感や、お互いのフィーリングが合うかが重要。自分の会社のオリジナリティをうまく伝えられるデザイナーをどうやって選ぶか、マッチングは大きな問題です。

橋田 ■ 福井の和紙屋さんと取り組んでいますが、和紙そのものが日本人の日常生活から消えつつある。身近に人々の手に触れる商品が必要だと考え、透かしの柄の

和紙をちぎるようにして、可愛い文房具を作りました。発売からもう10年以上になりますが、売上げよりも、和紙を手で破る行為そのものが、現代ではなかなか出来ず、貴重なこと。この商品を通じて素材の良さや、日本の文化の象徴でもある和紙を広められたように思います。日本感性工学会という学会で「かわいいもの大賞」というコンペに応募したところ、優秀賞をいただきました。

澄川 ■ 私と富山との初めての接点は、国の電源地域開発プロジェクトというもので、アルミ製の靴べらを作りました。きっかけは富山の展示会場で見た磨いたアルミの輝



AQUARIUM#003靴べら (Design: 澄川伸一)

きの美しさ。頑張って作ったのですが、富山では高価すぎると大不評。ところが、東京のリビングデザインセンター OZONEに出したところ、売れました。本当に気に入ってくれる人が一人でもいれば、それは商品として成立するのです。地場産業と組むには、やはり人間関

係が重要。公的なマッチングプロジェクトは、予算の都合上、一定期間で終わってしまうのが残念です。

桐山 ■ 400年の歴史を持つ高岡銅器を何とかしたいと考えて、KANAYAというプロジェクトをプロデュースしています。産地が抱える問題を解決するには目標設定を明確にしなくてはならないです。補助金に頼るとか甘えの構造から脱却していくないとダメ。特に富山の人はアピールが苦手で、もっとアピールできれば、接点が生まれ



「地域のものづくりには時間がかかる。そして商品化に成功しても生産が追いつかない」と語るパネラーたちの言葉に参加者も熱心に耳を傾けた



ミラノサローネ 2013フィエラ会場 Vitra社ブース

るはず。日本はデザイナー大国、適材適所でいけば、産地にとってよい環境は作りやすいと思います。

澄川 ■ 富山県、特に高岡市は元気があります。他と違うのは世代交代がうまくしている点。CADやコンピューターにも前向きで、しかも仲間意識が強くて連携がいい。

橋田 ■ 東京からではなく、地方から海外、パリ、ニューヨークやミラノなどの展示会に積極的に参加することはすごく意味があるし、効果がある。世界にはいろいろな価値観があり、自分の価値に合えば、すぐにオファーが来る。そういう機会をどんどん活用してはどうでしょうか。

桐山 ■ ミラノサローネに出展する企業や個人のデザイナーが年々増えています。メゾン・エ・オブジェは来年の2月からシンガポール、5月末にはマイアミで開催されます。それは、シンガポールに出ると、東南アジアの富裕層を抑えられるからです。アメリカ大陸においてはマイアミが南米と北米の中心地として最適です。そういう形で世界は、新しいマーケットに向かっている。世界のトレードショーは日本のものづくりに注目しています。その背景には、日本の食(寿司、ラーメン、低カロリー)が大きな影響を与えています。併せて、日本の産地が丁寧で美しいものづくりを長く続けて来た事も魅力です。今は世界のマーケットに対して攻めていく、良い時期です。



メゾン・エ・オブジェ 2014

を納期までに作れるかというと、そこまでキャバシティがないという問題があります。澄川 ■ 富山の経営者の中には、目利きの方がいて、いいか悪いか自分で判断して作っています。そういうデザイン的な判断力を持った経営者がもっと増えると、楽しくなると思います。

桐山 ■ ある限定されたものを作っていくこと、ここでしか作れないものを継承することは大事です。量を売っていくこと、特化した商品で守り高めていくことは、それそれルートが違う。その二軸を持っているのも、富山県の強さだと思います。そして、世界の著名なブランドの倍以上の歴史を持っているのが、日本のものづくり。これまで「魅せる」という行為が足りませんでした。「買いたい、欲しい」という欲求につなげ、そのこと自体をブランドしていく。同時に、やはり、すぐ買えるといったスキーム作りが大切ですね。

橋田 ■ PRする手段など、コミュニケーションのデザインも重要。海外に進出する時は、伝え方もデザインしていくといいと思います。

柴田 ■ できれば日本の企業と一緒に悩んで、一緒に挑戦する気持ちでお互いが妥協しない仕事ができればいいと思います。本当にこれがいいんだ、と思えるものが作れるような仕組みと、そういう仕事の出来る人を探し続けています。

Design Seminar

デザインセミナー

これからの建築と建材

[期日]2014年2月18日(火) [会場]富山県産業高度化センター 2F会議室
[モデレーター]桐山 登士樹(富山県総合デザインセンター デザインディレクター)

仕切るのではなく「繋ぐ」「見せる」「感じる」空間へ——

軽快な建築(ライトコンストラクション)は現代建築の重要な要素の一つです。
今回は、その最前線で活躍する東京大学大学院教授の千葉学氏と、
「高志の国文学館」の建築で知られるC+Aの東京代表・赤松佳珠子氏を迎えて、
国内外での作品事例や求められる建材等についてご講演いただきました。

講師



千葉 学
東京大学大学院工学系研究科教授
建築家
ちば・まなぶ／1960年東京都生まれ。85年東京大学工学部建築学科卒業。87年同大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了。2001年千葉学建築計画事務所設立。13年より東京大学大学院工学系研究科教授。



赤松 佳珠子
法政大学准教授
建築家
あかもつ・かづこ／1968年東京都生まれ。90年日本女子大学家政学部住居学科卒業後、シーラカンス(のちC+A, CA+T)に加わる。2002年よりCA+Tパートナー。13年より法政大学准教授。

古い素材を再編集して、
新しいコンテクストに置き換える

千葉■最初にお話するのは、千葉県の大多喜町役場を耐震改修・増築した事例です。役場の旧棟は、約50年前に建築家の今井兼次氏(1895~1987)が設計したもので、近代建築運動の真っ最中だった当時を反映した、合理的・機能的なコンクリート造りです。その一方で手仕事的な部分も多く取り入れられ、S字形の梁でキャノピーを支えたり、随所に壁画や金物、趣向を凝らした天井があつたりと、とても魅力的な建築です。

それでも普通なら、こんな古い建物は壊されて建て直されるところですが、町は敢えて改修して使う道を選びました。この決断に



シンプルなコンクリートの「L壁」と、メーカーと共同開発した建具からなる宇土小学校校舎

感銘し、何としてもやりたかった仕事でした。増築に当たっては、旧棟の後に大きな空間を作り、天井からきれいな光が落ちてくる中で、市民がいつも集まる場所にしようとしました。そして完成したのが、今井氏の合理性を継承したシンプルな四角い空間で、その天井には二つの方向に梁がかかっています。

町からは、歴史的な町並みが残る地域性との調和も要望されていたので、その点でも、町屋に見られるような天井の小屋組みを現代の目で再解釈した空間を提案できました。

また、化粧梁、ドアの取っ手など、保存されていた建具や素材を再利用することも、改修・増築というコンテクストの中に新たな価値を編集する楽しい作業でした。



キャンパスそのものを、
建築の教材に

千葉■私は、設計するときはいつも「人の集まり方をデザインすることを考えるので、その一例として、工学院大学の創立125周年を記念して建設された総合教育棟(八王子キャンパス)を紹介します。

大学の校舎というと、廊下に沿って講義室や研究室が並ぶのが一般的です。いったん室内に入ってしまえば、外との関わりはなくなってしまう。それを見直したいと思い、L型の建物が4棟寄り添う構成にしました。別棟の教室同士がパーサージュ(路地)をはさんで向かい合うことで、学内のさまざまな活動の様子が見えるようになっています。工学院大学では、同じく125周年記念として日本初の建築学部を設立したので、この

建物自体が学生の教材になるように、構造形式、建具、素材などを適材適所で使い分けました。

また、デザイナーの野老朝雄氏と協力して、4棟それぞれに微妙に表情が異なる有孔折板を、日射や視線をコントロールするスクリーンとして取り付けました。

これからも、ありふれた素材を使いながら、新しい関係性を見つけることで、建築の可能性を拓げていきたいと思っています。

サッシメーカーと協力して、
コーナーが全開放となる
サッシを開発

赤松■くまもとアートボリス・プロジェクトの一つである、宇土市立宇土小学校の例からご紹介します。

「一本の木の下に、教わいたい人と教わられる人がいる」のが学校の原点と言った先人がいますが、この校舎では「L壁」と呼ぶ部分的な壁をその木に見立てて、周りで子どもたちが学習や活動するイメージを描きました。L壁以外に、ほとんど外壁はありません。床から天井までの建具を開け放つと、爽やかな風が入り、豊かな雰囲気の中まですべりこむように学びの場が広がります。

建具は、福井のサッシメーカーと協力して開発しました。コーナーに方立をなくして全開放できるようにする、内外を自由に行き来する子どもたちのために下枠のおさまりをフラットにするなど、こちらからのさまざまなお願いに、熱心に応えていただきました。

国内外のインテリア・プロジェクト

赤松■カタール・ドーハにあるリベラル・アーツ&サイエンス・カレッジの教養学部棟を設計した時は、酷暑の地ですから、太陽の陽射しをどうするかが大きなテーマでした。外壁は、幾何学模様のパターンを施したGRCパネルのダブルウォールになっていて、夜にはライトアップされます。

ルーフも、直射光では強すぎるので、ルーバーで反射させて光を取り入れています。インテリアでは、外壁と同じパターンがトップライトやシェードにも使われています。仕切りに置かれた厚さ30mm、長さ6mのパネルは、真正面に立つと向こうが透けて見

えますが、角度がつくと見えなくなります。同国で初めての男女共学大学ということで、ベールのように視線を制御する効果を持たせています。

続いて、国内の事例として、ジャパンファンデーション(国際交流基金)情報センターのライブラリーを挙げてみます。

この建物自体は石張りの重厚な雰囲気ですが、ライブラリーのスペースはガラス張りで逆光が入ってきます。そのハレーションが印象的だったので、光の中に浮遊する本の森の中にさまでいい感じにしたいと思い、薄い鉄板で組んだシンプルな本棚を製作しました。

また、テキスタイルデザイナーの安東陽子によるファブリックと光のランタンが、道路からのアイキャッチになります。日中は外からの光を活かし、夜はファブリックを通した光を見せるという、美しい空間ができたと思います。

建築家とメーカーが
本音で語り合い、高め合う場を

会場から■建築とともにづくり、それに携わる人々がもっと協働していくにはどうすればいいでしょうか。

赤松■こちらの希望やアイデアに対して、レスポンスが速く、提案に熱心なメーカーはありがたいものです。富山のメーカーには、得意分野をアピールしてほしいですね。実は建築家サイドも、どうやって、どこまでアプローチしていかわからない面もあるので、もっと率直にコミュニケーションできる場があればと思います。

千葉■新人の頃は、メーカーの方と打ち合わせをする度に、その豊富な知識と経験に心を打たれました。この人たちが日本の建築を支えているのだと実感しました。今のメーカーも、そうした人材を育てて大切にしてほしい。建材関係の産業が盛んな富山県にも、ぜひ期待したいところです。

桐山■お二人のお話からは、清涼感があり、伸びやかで、気持ちのよさそうな建築を感じました。そして、素材感の大切さ、マスクロダクションで作られる産業としての建材のありかたを考え直すヒントも示唆されたと思います。本日はありがとうございました。



写真上／鉄骨の大梁、H鋼を木でくるんだ小梁など、素材の異なるフレームが縦横無尽に重なりあう大多喜町役場増築棟
Photo:Masao Nishikawa

写真下／建物が折れ曲がって寄り添うことで、他の授業や活動の様子が感じられる工学院大学総合教育棟
Photo:Masao Nishikawa

Study Group

富山県商品開発研究会

デザインを通じて 地域産業の振興を

富山県商品開発研究会は、地元企業25社で構成され、富山プロダクトデザインコンペティション2013の審査会やコンペ商品化検討・意見交換会、セミナー参加など年7回の活動を行ってきました。これらの活動は、富山県における産業デザインの振興と高度な富山ブランドの開発を促進し、さらに地域産業の活性を目的としています。

平成25年度実施内容

最新デザインの情報の提供、デザイン商品開発の促進、企業間交流の推進を図ります。

今年度は、特に当研究会会員とデザイナー、あるいは当研究会会員が共同で新商品を開発できるよう積極的に取り組みました。

開催日	内容
第1回 5.16	経営者のためのデザイン活用セミナー グッドデザイン賞説明会
第2回 8.8	富山プロダクトデザインコンペティション 第1次審査会
第3回 8.27	富山プロダクトデザインコンペティション 作品パネル開示
第4回 9.12	首都圏デザインマッチング会
第5回 10.1	富山プロダクトデザインコンペティション 最終審査会 交流会への参加
第6回 12.19	ものづくり企業デザイン活用セミナー デザイン相談会
第7回 2.27・28	デザイントレンド速報 商品開発ミーティング 会員企業見学会



経営者のためのデザイン活用セミナー

Good Designから Success Designへ

デザインを経営に活かす。
企業価値を高めるデザイン戦略の成功手法

[講師]桐山 登士樹(富山県総合デザインセンター デザインディレクター)
[期日]2013年5月16日(木) [会場]富山県産業高度化センター 2F会議室

個性と差別化ブランド化

今、あらゆるものがデパートや専門店、ネットでも買うことができて、それも、質の高いものを入手することができる。私たちはグッドデザインが、世界中から集まってくれるような恵まれた環境にいます。しかし一方で、市場に流通している商品は、メーカーの個性を失い、消費者にとってはどこのメーカーの品を購入しても、大差がない状況が起こっています。そこで今何をしなければならないのかというと、差別化であり、ブランド化。それは、グローバルマーケット、グローバル社会が来ているからなのです。

グローバル市場で 競い合うために

他国では近年、技術・デザイン・生産力、そして品質基準もアップしていく、非常に激しい国際競争を行っています。これは、中国、ASEANほか、インドやブラジルでも同様。彼らが競う場は、海外の見本市です。世界中であらゆる展示会が行



「自分たちのポジションをきちんと高めるためには、総合的な戦略が必要であり、その中心が『デザインマーケティング』と桐山デザインディレクター。終りに桐山氏から『セレンディピティ』というメッセージが送られた。「できるだけ刺激的な人に会っていろんなものを享受してほしい」



なわれていて、非常にボーダレスな時代が
来ています。

私はデザインマーケティングに注意を
払っています。やはり顧客が真に求める商
品やサービスを作り、その情報を届け、顧
客がその商品を効果的に得られるようにす
る。そのためにはありとあらゆることをしてい
かねばいけません。今の時代をきちんと認
識しながら戦略を作っていくかねばならない
のです。

グローカル化する なかでの挑戦

グローカルとは、グローバル・ローカルの
ことです。社内で新しいものを作るサイトを
作れば、それには新しいビジョンやテーマ、
スキームも必要になります。そこにはやは
り、デザイナーや技術者といった新しい価
値を生み出す人とのプラットフォームが必
要です。自分たちの取り組みを発表、プレ
ゼンテーションするとなれば、マーケティ
ングも必要。それは国内のみならず世界にも
打ち出していくことも可能です。

KANAYA 400年の技とエッセンス

KANAYAは協同組合ですが、新しい市
場に向かって、ものをきちんと作って売れる
会社にしていきたいと思っています。高岡発
インターナショナルブランドを作り、持続可
能な体制にしたい。新たな販路を作りたい
ですね。異素材を組み合わせることによっ
て、新しい価値、新しい見え方、そのための
デザインをしていきたいと考えています。



KANAYAは、国内外で活躍する紺野弘通、
小林幹也ほか若手デザイナーとのコラボ
レーションにより、高岡のリソースを活かした
提案型商品の開発を行っている。主なルート
は国内では、IDC大塚家具と海外マーケット



アンビエンテ会場で目を引いた「trends2014」ハイセンスなスタイリング展示

欧州最大級のインテリア&デザイン見本市「メゾン・エ・オブジェ」(フランス・パリ)、そして世界最大級の消費財見本市「アンビエンテ」(ドイツ・フランクフルト)。一流のメーカーとバイヤーが集う展示会に、プロデューサーとして優れた日本製品を紹介している講師が、今年の会場の様子やデザイントレンドを報告しました。

“ハイエンド”“エレガント”に特化したメゾン・エ・オブジェ

メゾン・エ・オブジェ2014(1月展)
会期:2014年1月24日(金)~28日(火)
会場:ノールヴィルバント見本市会場

今回取り上げる二つの展示会は、ミラノサローネと並んでヨーロッパで最も話題性があり、力のあるイベントです。

なかでもメゾン・エ・オブジェは、ハイエンドで装飾的、エレガントな商品を扱いますが、主催団体(SAFI)の審査が厳しく、新規参入は簡単ではありません。また、出展場所が良くないとビジネスにもつながりません。私は3年前から高岡銅器協同組合のKANAYAブランドをプロデュースしていますが、人気のあるホールのブースを確保して出展に臨みました。

KANAYAは、高岡独自の金属加工をベースに、皮革、ウッドなど異素材とのコンビネーションが持ち味です。3年間続けてきたことでバイヤーが付き、安定的に売れる商品も出てきました。加えて今年は、コートスタンドが、「マダム・フィガロ」誌の選ぶTOP10デザインにも入りました。

メゾン・エ・オブジェは、アジアや南米への海外展開をさらに進め、今年3月にシンガポールで、来年5月にはマイアミでも開催の予定です。マーケットのあるところへ見本市も出て行く時代なのです。

上質なマスプロダクションを扱うアンビエンテ

アンビエンテ2014
会期:2014年2月7日(金)~11日(火)
会場:フランクフルト国際見本市会場

アンビエンテも幅広い生活用品を扱いますが、特徴はそれらが「消費財」つまり大量生産品であることです。

今年は日本がパートナーカントリーということで、日本ならではの新素材、デザインや、有名&若手デザイナーの作品が数多く紹介されました。私は「伝産マーク」で知られる



シンプルな中にもこだわりをこだわったKANAYAブース

デザイントレンド速報 メゾン・エ・オブジェ2014 アンビエンテ2014

[講師]桐山 登士樹(富山県総合デザインセンター デザインディレクター)
[期日]2014年2月27日(木) [会場]富山県産業高度化センター 2F会議室

伝統的工芸品産業振興協会の海外初出展をプロデュースし、日本の粹なものづくりからマスプロ製品まで、世界に向けてPRし販路拡大するお手伝いをしてきました。

日本のものづくりが、 世界で戦うには

今年の両会場で目立ったのは、カラフルな「色」づかいです。EU経済の低迷などの暗い状況からもう抜け出そう、という意識の表れでしょうか。また、北欧デザインの影響も強く感じました。独特の色合いや風合い、センス、ものの作り方・収め方の確かさなどの安心感が受け入れられているようでした。

展示構成で印象深かったのは、商品を単品で並べるのではなく、ファブリックや花をセンスよくあしらって一見して「素敵」と思われる空間を作る、といった全体の美的演出です。ものの機能性だけでなく、デザイン、質感、素材感をアピールし、他者との関係性の中でのコーディネーション、デコレーションまで含めてトータルに提案できないと、成熟が進むマーケットで戦うのは難しいでしょう。

最後に、見本市でのビジネスに関して付け加えるなら、自社のブランドの概念を確立し、やる以上は自信を持って(駆け引きも含めて)取引先とB to Bの関係を築くこと。そして、一度信用関係ができたら、それを継続し、量につなげていく努力が必要です。



世界マーケットに進出する藤木伝四郎商店ブース(秋田県)

Design Seminar

ものづくり企業デザイン活用セミナー

テクノロジーとデザインの融合で 社会を創造する

[講師]石橋 勝利(AXIS編集長)

[期日]2013年7月10日(水)
[会場]富山県産業高度化センター2F会議室

県内建築家・デザイナー及び富山プロダクツ企業経営者のデザインマインドの向上やデザインビジネスの促進を図る「ものづくり企業デザイン活用セミナー」。

富山県総合デザインセンターでは、富山県工業技術センター及び県内各種団体(工業会、商工連合会、商工会議所)等と連携し、新素材や高度な技術を有する製造業へのデザイン活用促進を目的に全5回開催しました。



一番大事だということです。「自分が楽しいか」これが、日本のモノづくりには必要なでは。

レースを自分でつくる

北京オリンピック開催の後、新聞掲載されていた中山竹通氏のコラムです。

アフリカの選手はどんな時でも高速で行くレースをやる。今の日本人は、決してそういうレースをしない、誰かにレースを作っていて、それに乗っかっていくという考えでは、もはや世界とは戦えない。レースを自分で作れるだけの力を持たなければならない。最近の日本人は甘い。そういう内容です。

デザインの話でも、自分の生き方、仕事に対する姿勢にもあてはまるような気がします。仕事を作っていく、自分たちの技術で自分たちのレースを作り上げていくのは自分たちしかない、と思う今日この頃です。

デザインとテクノロジーを 分けて考えない

アクシスは1981年に設立されました。以来、『デザインのある社会』をコンセプトに32年間活動を続けてきました。雑誌「AXIS」は同年から発行している、日本で唯一のバイリンガルデザイン誌です。

我々、原稿を書く時は、デザインとテクノロジー、またはデザインと技術というように言葉を分けて使うことはありますが、実際取材したり、企画を考えたりする時には、これらを区別しては考えない。つまり、テクノロジーとデザインに境目はないのではないかと、思っているわけです。そういう意味ではデザインを広く捉えています。



雑誌「AXIS」で取り上げられているさまざまな話題やMITのメディアラボ、東大の先端研の事例などが紹介された

例えば、「災害対策とデザイン」という特集は、災害に対してデザインが関わることがあるのではないか、という内容です。単純にグラフィックや建築関連の話ではなくて、防災技術も含むもっと他領域にわたつてです。

前回落選した時の東京オリンピックに関する特集も行いました。オリンピックによって、都市がどう変わっていくのかという内容です。ガードレールや横断歩道、街路樹などもデザインであり、社会のあらゆる事象にデザインが関わっている。そんな視点で「AXIS」はやっています。

デザインのフロンティアを行く

かつてSONYがウォークマンなどのヒット商品を出した頃、エンジニアとデザイナーの境目があまりなかったような気がします。MITメディアラボも、全員がデザイナーで全員がエンジニアです。エンジニアとデザイナーが共同作業する事例が、もっとあってもいいはず。自分たちの技術の高さを外部に対してどうわかりやすく、楽しく見せるかというの、すごく重要なブランディングの一つではないでしょうか。

例えば、メディアラボの研究者たちは、まず自分たちが楽しんでいます。ガジェットのようなプロトタイプでも、色をつけたり、配線をうまく隠したり。そのあたりの見せ方がうまい。研究室の室内空間も楽しげで、クリエイティブ。どこか遊びがあるんです。だからユニークな発想が生まれる。欠かせないのは、新しいものを作るには、自分の姿勢が

「形じゃない技術がどんどん増えてきてしまって、今はそれをどうやって見せるかがデザインの課題のような気がします」と語る石橋氏



Design Seminar

3Dプリンターブームは何なのか? 3Dプリンターは本当に新産業革命のツールなのか?

[講師] 原 雄司(株式会社ケイズデザインラボ代表取締役・3Dコンサルタント)

[期日] 2013年8月9日(金)

[会場] 富山県工業技術センター技術開発館

ものづくり企業デザイン活用セミナー

昨今話題の3Dプリンター。欧米を中心に「新産業革命」のツールとして取り上げられ、個人がメーカーになれるという「MAKERS ブーム」も起きています。しかし本来の、生産技術として発達してきた積層造形との違いあまり知られていません。3Dプリンターの基礎知識から、実際の使用例、今後の進化普及の展望までを(株)ケイズデザインラボ代表取締役の原氏に語っていただきました。また、講演会に併せて県内の3D導入例紹介や、関連設備の見学会も行われました。

家電量販店に登場した 3Dプリンター

3Dプリンターは、かつては数千万円、数億円するものもありましたが、近年は安価になり、数十万円、数万円のものまで出てきています。構造を見ると、カセットの中には材料の樹脂が入っており、樹脂の種類に応じた温度で加熱して、ちょうどマヨネーズを絞り出すようにニュルニュルと造形する熱溶解積層方式です。USBなどでデータを取り込み、メニューを選ぶだけで操作することができます。

短命だった 第1次・第2次ブームの教訓

3Dプリンターとは積層造形技術の一つでもともとは工作機械ですが、2000年頃に第1次ブーム、2007年頃に第2次ブームがありました。後者のときは「3次元の印刷機、コピー機」と喧伝されたことから、印刷業界などで導入したものの、使いこなせないままブームが終焉した観がありました。現在の第3次ブームでは、「100V電源で動作する」「専任のオペレーターが不要」



「ものづくりのプロが近場にいるということは、國土の狭い日本ならではのメリット」と原氏

写真左／3Dプリンターの実演
写真右／ダウンロードしたデータなどをカスタマイズして造形した玩具や雑貨など(TOKYO Maker 毛利氏)



「オフィスや家庭に設置可能」なものが中心です。プロが使う工作機械と家庭用3Dプリンターを一緒にすること、また、メディアの言葉にあまり振り回されない方がいいですよ、というのが私の意見です。当社は、様々な企業向けに3Dツールを活用した商品開発のお手伝いをしていますが、ものづくりスタイルを体験できるワークショップを実施しています。この講座では、100円ショップで購入した2個以上のモノを組み合わせて新しい商品を開発し、プレゼンするという内容です。参加者は、自動車、家電、雑貨など幅広い業種にわたり、設計者やデザイナー、生産技術、商品企画の方が多いです。このワークショップのように、さまざまなアイデアを実体化しながら、良いものを選択してスピーディに商品化することを「プロトタイピング思考」といいます。違う業種、違う会社、違う立場の人々が協働するときに、モノがあると全然リアリティが違います。3Dがそのコミュニケーションツール、共通言語になるわけです。

3Dプリンターと日本のものづくり

「3Dプリンターの普及で金型が不要になるのか?日本の製造業に未来はあるか?」

といった論調をよく耳にしますが、私はそれほど悲観的ではありません。3Dプリンターの基になった積層造形技術は日本の特許ですし、工作機械として使いこなしてきた企業は生き残り、次のステップに進んでいます。前述したワークショップも、3Dのデジタルツールだけでなく、素材の選定や加工などで町工場の職人さんに大変助けられました。3Dプリンターは後仕上げが大切なため、メッキや塗装、アート加工などを施して使いこなせる日本は、世界でもトップクラスだと思います。僕は、本当にモノを作る意味で中小企業を「Real MAKERS」と呼んでいますが、彼らと、これからメーカーになりたい個人のMAKERS、あるいは、今の企業の体质を変えるのだと頑張っている人たちを集め、プレゼンテーション大会を開いています。

今後の関連ビジネスの展望としては、現在、3Dプリンターの世界シェアはアメリカの2社で75%以上を占めていますが、日本の技術力を活かした国産機開発の動きがあること。新素材の開発とリサイクル。そして、データ販売やコミュニティづくりを日本なりにやっていくことが特記されるでしょう。

Design Seminar

クラウドファンディング

～中小企業の夢を実現する最新資金調達術～

[講師] 松崎 良太(きびだんご株式会社代表取締役)

[期日] 2013年12月19日(木)

[会場] 高岡テクノドーム

デザインビジネスの大きな課題である資金。アイデアやデザイン、技術がどんなに優れても、試作に取り組む時に資金面でのリスクは避けられません。インターネット上で「ものづくり」のプロジェクトを公開してサポーターを募るという、新しい資金調達法「クラウドファンディング」を、きびだんご(株)松崎良太氏に紹介していただきました。

事業のスタートアップ支援 「きびだんご」にいたるまで

2013年2月に「きびだんご株式会社」を設立し、3月からクラウドファンディング型EC事業というサービスを始めました。それまでは、日本興業銀行や楽天でいろいろなことを経験しましたが、最もおもしろかったのが「スタートアップ支援」でした。いろんな人たちがどんどん新しい事業を起こすのをサポートして、事業が大きくなるのをお手伝いする。我ながら、ときめきました。2009年、アメリカで「キックスター」という会社が設立されました。クラウドファンディングとして成功した事業として、知られている会社です。個人でも事業支援はできるのですが、やはり限界があります。そこで、「キックスター」の考え方方にインスピライされるような形で、「きびだんご株式会社」を立ち上げた次第です。

購入型クラウドファンディングは 価値観の等価交換

クラウド=crowd(群衆)、ファンディング=funding(資金調達)を合わせた造語が、



昔話「桃太郎」をたとえに、わかりやすくクラウドファンディングが解説された

クラウドファンディング。多くの人たちから、お金を集める。集め方にはいろいろありますが、キックスターーや我々が行っているのは、購入型クラウドファンディングです。これはお金を出した人自身が、その価値観に照らし合わせて「等価である」と感じる対価があること。つまり、等価交換が大原則です。

多彩なプロジェクトがあります。地方の事業者がインターネットで商圏を広げて消費者ニーズをダイレクトに聞いてみたい。経験あるワイナリーが、新たなワインづくりに挑戦したい。こういったプロジェクトにサポーターたちが共感して、お金を出して応援する。ただし、目標金額が集まらない場合は、中止です。サポーターにもリスクはありません。でも、プロジェクトオーナーたちは、何度もトライできる。価格帯を見直したり、商品としての特徴を見直したりして、また、公開してサポーターを募る。目標の金額が集まれば、そのプロジェクトを実現して、成果物としていろんな特典をサポーターの方に、返していただきます。それは、商品に限らず、体験や知識であってもいい。サポーターにとって等価交換としての



事例紹介「新潟県のワイナリー・フェルミエが
新しく挑戦するピノ・ノワールのワインづくり」



「事業を成長してもらう、応援するのは、私のテーマ、ライフワーク」と松崎氏
価値があればいいのです。

サポーターをひきつける
優れたプロジェクトとは

クラウドファンディングは、先にお金をお預かりしてから物を作るので、キャッシュフロー的に助かります。また、需要数が先に把握できるので、無駄に在庫も不要です。さらに、その商品の市場性の調査も可能です。特に、試作段階からファンとともに商品やサービスと一緒に育てていくという共有感は、対価として重要なと思います。

プロジェクト成功に必要なのは「ことひと もの」です。まず、プロジェクトそのものが非常に魅力的で、共感を集めやすいこと。そしてプロジェクトオーナーのスキルが非常に安心感のあるプロであること。そういうプロジェクトに、サポーターたちは「自分の代わりに夢を実現してくれるのではないか」と共感し、思い入れを持って応援してくれます。誰もが「おもしろいことをやってみたい」種を持っている。その実現化へのお手伝いができると、我々もおもしろいです。いつか皆さんのお役に立つことができるだろうと思っています。



**TOYAMA
PRODUCTS**

富山プロダクツ選定事業

ワールドワイドに躍進する 富山プロダクツ

「富山プロダクツ」とは、県内で企画または製造された工業製品を対象に性能・品質・デザイン性に優れた商品を富山県が認定しまたその販路拡大を支援しているものです。

選定委員

委員長 大矢 寿雄 富山県総合デザインセンター所長

委員 小川 滉平 (株)フジイ 経営管理本部企画開発部
マーケティンググループ

蒲田 龍性 (財)富山県新世紀産業機構
中小企業支援センタープロジェクトマネージャー

長山 智美 インテリアデザイナー

矢口 忠憲 富山大学芸術文化学部准教授

桐山 登士樹 富山県総合デザインセンター デザインディレクター



富山プロダクツ選定委員会

12回目となる2013年の選定会では47点が申請され、23点（うち6点が再申請）が選定されました。評価は、商品にコンセプトがあるか（富山らしさ）、デザイン性・独



選定委員会の審査は、委員それぞれが意見や感想を交えながら行われた。特に商品の市場性については、海外市場も視野に入れた発言も多かった。どんな商品をどんな方法で、どの市場に発信するかも富山プロダクツの課題



自性があるか（外観等の工夫、類似商品・産地との差異化）、市場性・継続性があるか（適正な価格、環境・社会への配慮）の3項目によって行われました。

今年度、初めて再申請の応募があり、平成14年度に選定された商品が再度選定されるなど、富山から多くのロングライフデザインも生まれています。

選定会後には富山プロダクツ2013展を開催。新しい富山ブランドに多くの来場者から関心が寄せられました。

富山プロダクツ選定証交付式

2013年10月2日、ウイング・ウイング高岡1階交流スペースで、富山プロダクツ選定証交付式が行われました。大矢所長から「今年は19社23点が選定されました。



★は再申請応募により、再度選定された商品

竹根拭漆酒器セット
[酒器セット]
南部治夫(自眼舎)



Provence(プロヴァンス)
[IH土鍋調理器]
(株)小菊製作所



HAYURシリーズ
[バスエア]



越翡翠硝子
[ぐい呑・片口]
(一財)富山市ガラス工芸センター



15.0% アイスクリームストラップ
No.06 sesame
[スプーン]
(株)タカタレムノス



RED & WHITE
[カップ]
(株)織田幸銅器



AQUARIUM #002 ★
[靴べら]
(株)竹中銅器



solano ソラノ
[うちわ]
(株)ナガエ



Oyster incense
[香炉]
(株)ナガエ



虹シリーズ
[リンドル]
[おりん]
(株)山口久乗



縁起のいい貯金豚
[貯金箱]
きんとん、ぎんとん
(株)能作



八尾和紙でできた
ミニバッグ
[バッグ]
(有)桂樹舎



いろいろ使える
和紙のしきもの
[しきもの]
(有)桂樹舎



健康にぎり玉つぼ押し、
健康つぼ押し棒
[健康器具]
鳴田工芸(鳴田数男)



二十四金 宝箱
[財布、名刺入れ]
リアルバランス(株)



toneシリーズ
[ペンダントライト]
(有)モメンタムファクトリー・Orii



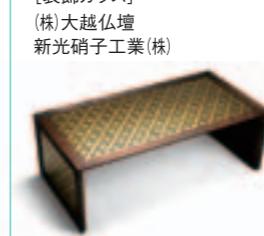
toneシリーズ
[銅製バケツ]
(有)モメンタムファクトリー・Orii



純木曾桧ベッド
AK-01、AK-02
[木製ベッド]
浅野ヒッタ家具工業(株)



金箔サンドイッチガラス
Gold art glass table
[装飾ガラス]
(株)大越仏壇
新光硝子工業(株)



和裁工房
卑弥呼 HIMIKO
[和服縫製用ミシン]
(株)ラボージュ

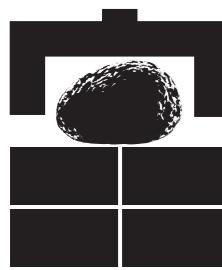


透明防護盾
[盾]
(有)ナンワ



Lappo(らっぽ)
[モジュラーシステム車椅子]
カナヤママシナリー(株)荻生工場





**TOYAMA
PRODUCTS**

メイド・イン・トヤマをより広く知らしめるために

富山プロダクツ選定商品 販路拡大調査を実施

富山県では、「富山プロダクツ」を認定するとともに販路開拓を支援する制度を設けています。

しかしながら、現状のサポートだけでは販路拡大に大きく寄与することは難しく、

新たな取り組みが必要と考え、今年度は専門家チームによる市場、販路等の調査・分析を行いました。

販路拡大調査の手法について

「富山プロダクツ選定商品」は、分野・素材・ターゲット・価格帯が幅広く、ひとまとめに販路拡大を提案することは困難と考え、選定商品の中から調査対象商品をピックアップし、個別の調査・提案を行うこととしました。

また人々の嗜好や販売手段の多様化などで昨今の市場は大きく変化しています。そこで、複数の専門家がチームを組み、市場状況や販路及び宣伝手法を調査・分析します。課題を明確にし、多角的な視野から対象企業にヒアリングを行い、それらを取りまとめ各企業にフィードバックしました。

スケジュール

2013年 12月
参加事業者へのアンケート実施／回収
専門家へ依頼
対象商品決定

2014年 1月
対象商品企業へ
ヒアリング

2014年 2月
対象商品企業へヒアリング
専門家チーム会議
各専門家による調査

2014年 3月
各専門家からの調査結果／提案提出
専門家チーム会議
全体の取りまとめ
調査結果報告／提案提出

次年度以降の取り組みについて

従来のサポート事業に加え、今回の調査結果をもとに各企業にアドバイス・提案を行い、販路拡大へ活用する予定です。

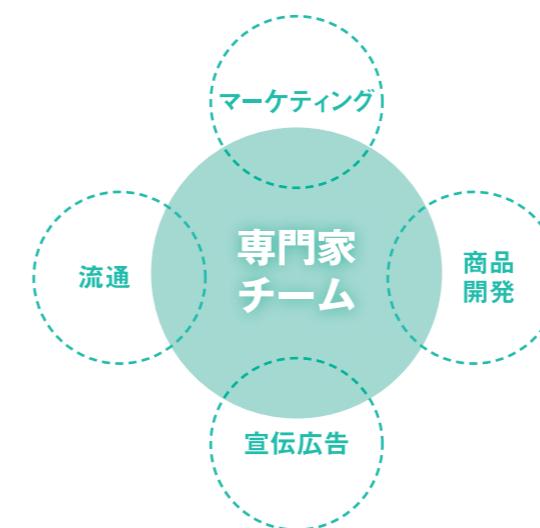
専門家による
調査・分析結果

1 富山県側からの
新たな販路拡大
支援の提供

2 各事業者のこれまでの販路拡大
宣伝手法の改善、
新たな取り組みの開始

3 今後の
商品開発に
向けて活用

専門家チームによる調査



プランニング
広報宣伝
青木 昭夫



商品開発、
流通
(インターネット)
中村 真一郎



商品開発、
流通
(ギフトカタログ)
茂木 新之助



全体
コーディネート
林口 砂里

1978年東京生まれ。MIRU DE SIGN代表／クリエイティブディレクター。2005年～2009年デザインイベントDESIGNTIDE TOKYOディレクターを経て、2009年MIRU DESIGNを始動。プロダクト、インテリア、建築、グラフィックなど、様々なデザイナーのネットワークを活かし、デザインエキシビションやプロモーションイベントの企画、プロデュース、コーディネートを行う。また、音楽家坂本龍一が代表を務めるmore treesのオリジナルプロダクトに置ける商品開発ディレクション、インテリアライフスタイルのクリエイティブディレクションを行う。

合同会社 続 CEO／にっぽんてならない堂店長。元All Aboutスタイルリスト事業責任者。大学卒業後、亞鉛製錬メーカーへ入社。工場勤務、営業、生産管理、事業企画立案などの職務を経験したのち、総合情報サイトを運営する株式会社All Aboutへ入社。経営企画・人事責任者を経て、2009年10月にAll Aboutスタイルリスト事業責任者就任。2013年合同会社 続 設立。同年、取りに行くネットショップ「にっぽんてならない堂」を開始。便利さを追い求めるネット通販とは一線を画し、わざわざ現地へ行って、モノづくりを体感して商品を手に入れることを提案している。

株式会社 大和(やまと)バイヤー。商品買い付けやオリジナル商品企画の他、ギフトカタログの企画・制作にも携わる。ギフト分野で培ったノウハウと物流機能を最大限に活用し、ブランディング(商品企画)、パッキング(商品買い付け)、アウトプット(商品カタログ編集)、ロジスティクス(物流)の4つの機能を一体化。多様に変化するギフトニーズに対応できる効率的なシステムを構築。現在、東京と大阪にアンテナショップを展開。2013年地元長野県松本にポーランドの陶器メーカー「セラミカ」のショップを開設。2012年より、地元・富山県高岡市にも拠点を持ち、地域のまち作り／ものづくり振興のプロジェクトにも取り組んでいる。

Night Forum

ナイトフォーラム

デザイナー小林幹也の 考えている事、実行した事

[講師] 小林 幹也(デザイナー)

[期日] 2013年10月2日(水) [会場] KANAYAショールーム

各分野で活躍している人を講師に迎え、話題提供していただくことで

新たなデザインの再発見や、デザイナー相互または異業種間での交流を図る

「ナイトフォーラム」。プロダクトデザイナーであり、また「KANAYA」の

メインデザイナーとして活躍する小林幹也氏を講師に迎えて開催しました。

デザイントークでは、小林氏が自ら企画・デザイン・販売まで手掛けるショップ

「TAIYOU no SHITA」についても語られ、

その後の交流会でも参加者と親睦を深めました。

デザインとの出会いは
素晴らしい椅子たちから

高校時代に武蔵野美術大学の島崎信教授の椅子に関する雑誌の記事を拝見したのがデザイナーを目指すきっかけです。人間は一日の中で座っている時間がすごく長いですし、椅子だけでなくそういう暮らしを支えるものにつくる職業があることをその時に知りました。

モノがあると、絶対に空間がある。空間があると絶対モノがある。そこに人が入っていて、その相互の関係は絶対切り離せません。つまり、モノが置かれる空間があるのであれば、その空間をデザインする観点からモノをデザインしてみたい。そういう考え方で大学ではインテリアを専攻しました。

以前、イギリスの雑誌から「好きなデザイン



小林 幹也
デザイナー。(株)小林幹也スタジオ代表。2011年、東京都墨田区にショップ「TAIYOU no SHITA」をオープン。

Photo by Yosuke Owashi

を5つ挙げてください」という寄稿の依頼がありました。そのうちの3つを紹介したいと思います。まず、ハンス・ウェグナーというデンマークのデザイナーのCH-20という椅子です。シンプルで一見地味と感じるかもしれません。座り心地も良く、見えない所に技術が詰まっています。かつ技術を前面に押し出さない。使う人のことを考えているデザインだと思います。

二つめは筆です。筆の持ち手のところの竹と、馬の毛で作られた先端部分。シンプルな道具でいて、先端部分に墨汁を浸して手に持った時の重量のバランスが好きです。その比重のバランスが書き心地の良さを生み出します。三つめは、自然。緑や海などに癒されます。自然からはデザインする時にいつも刺激やきっかけをもらっています。

最大公約数から生まれるデザインは
欲しいデザインにならない

転機となった作品たちと
出会った人たち

2005年に「UKI HASHI」をデザインしました。商品化にあたってはアッシュコンセプトの名児耶秀美さんが応援してくれました。その後、2007年にミラノサローネに遊具を出品して、サローネサテリテの賞も頂きました。次に一番大きな転機となったのは



HARU Photo by Takumi Ota



TATE OTAMA
Photo by Yosuke Owashi

が、2008年、旭川で開催された「国際家具デザインコンペティション」です。出品作品はすぐには商品にはなりません

でしたが、その後愛知県のカリモク家具さんよりお声がけ頂き、出品作を含めた「HARU」という家具のシリーズを手がけさせて頂いています。

富山と出会いきっかけになったのは「TATE OTAMA」という商品。2008年に出品して、グランプリを頂きました。富山市のusuiworksさんとOSBを使った小物や家具のシリーズをやったり、旭川のドリーミー・パーソンさんと「kime」シリーズを立ち上げました。ほかにも、タカタレムノスさんの「IKI」というアルミニウムの鋳物のシリーズや、大阪のアイワ金属さんより「Timbre」のドアチャイムなども手がけています。

全ての使い手の要望を踏まえたデザインを起こしても、結果的に誰も欲しくならないことがあります。デザイナーもメーカーも「これがいい」と自信を持って追求していくことが大切です。だからこそ、常にメーカーとはコミュニケーションを取ることで、お互いの意見を尊重しながら進めています。使い勝手を考えながらしっかり暮らしに馴染んでくれるようデザインを心掛けています。

Event

富山県総合デザインセンター主催の各種イベント

富山のデザインを県内外により広く、身边に発信

2013年は、ユーザーにとってより身近な場所で富山のデザインを紹介しました。

富山県総合デザインセンターでは、多くの人に富山のデザインを伝えられるよう、今後も様々なイベントを開催していきます。

「富山プロダクツ常設展」

[会場] 富山県産業高度化センター展示室

[開館時間] 18:30~17:00

[休館日] 土曜・日曜・祝日、年末年始

富山県総合デザインセンターでは、富山県内で企画・製造された商品の中から機能性、デザイン性に優れた富山らしいものを、毎年「富山プロダクツ」として選定しています。従来は各種展示会への出展や総合カタログへの掲載などで販路拡大をサポートしてきました。さらにより多くの方々に「富山プロダクツ」への認知度を高めるため、これまで選定された商品約150点を常設展示しています。これらの商品のほか「工芸都市高岡クラフトコンペ」のグランプリ作品も展示しています。

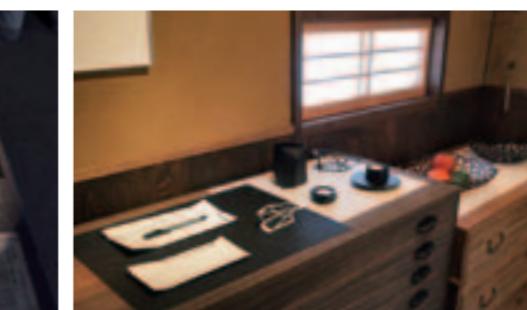
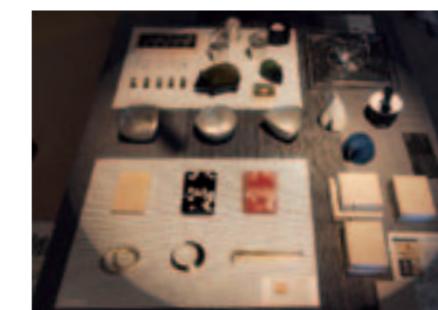


富山プロダクツ展 in茨城

[期間] 2013年5月9日(木)~5月28日(火)

[会場] 小さなギャラリー庵

富山プロダクツ選定商品の展示販売を開催しました。会場の古民家風ギャラリー「庵」では、生活を楽しむ富山発のデザイン商品約150点が紹介されました。



富山県総合デザインセンター ニュースリリース

[HPアドレス] <http://www.toyamadesign.jp/>

富山の最新デザイン情報を年間12回程度、ニュースリリースとして刊行しています。デザイン関連のイベントや県内メーカーの各賞受賞など、毎回取り上げるテーマを変えて、写真を豊富に盛り込んだビジュアルなニュースリリースです。センターのホームページからPDFでダウンロードできます。



1 デザイン開発支援事業		名称・日時	内容	備考	場所	6 情報発信		名称・日時	内容	備考	場所
1 デザイン開発支援事業	富山県商品開発研究会 2013/5/16	第一部 商品開発研究会H24年度事業実績報告及びH25年度事業計画について 第二部 経営者のためのデザイン活用セミナー「Good Design から Success Design へ」グッドデザイン賞応募説明会	講師:桐山登士樹(総合デザインセンター・デザインディレクター) 説明者:(公財)日本デザイン振興会 グッドデザイン賞事務局	総合デザインセンター 2Fプレゼンテーションルーム 富山県産業高度化センター 2F会議室	東京国際文化会館(東京都港区)	機関誌の発行 2014/3/28	offer41号 平成25年度事業報告	6 情報発信	デaign雑誌情報	日経デザイン、AXIS、confort、ELLE DÉCOR、Casa BRUTUS、+DESIGNINGなどのデザイン誌を整備し、閲覧するなどの情報提供を行つ	総合デザインセンター デザインライブラリー
	2013/8/8	富山プロダクトデザインコンペティション第1次審査会			富山県産業高度化センター 2F会議室	7 越中富山お土産	委員会 2013/6/26	富山お土産プロジェクト 新商品の決定、新たな分野へのギフト開発等について協議	委員:	中山真由美((有)ファインプロジェクト アートディレクター) 能作幾代(nousaku店主、チーズソムリエ) 羽根由(株)生活ネット研究所 代表取締役所長) 平島亜由美(北日本放送(株)報道制作部 部長) 大矢寿雄(総合デザインセンター 所長) 桐山登士樹(総合デザインセンター デザインディレクター)	総合デザインセンター プレゼンテーションルーム
	2013/8/27	富山プロダクトデザインコンペティション作品パネル内見会			東京ミッドタウン・デザインハブ (東京都港区)	2013/12/11	新商品開発の取組状況、今後のイベント販売の予定について				
	2013/9/12	メイド・イン・ヤマのデザイン展			ホテルニューオータニ高岡 4F	2014/3/14	平成25年度事業報告について				
	2013/10/1	富山プロダクトデザインコンペティション最終審査会・交流会			高岡テクノーム 大展示場						
	2013/12/19	第一部 ものづくり企業デザイン活用セミナー 「クラウドファンディング ～中小企業の夢を実現する最新資金調達術～」 第二部 個別相談会	講師:松崎良太(きびだんご(株)代表取締役)	アドバイザー:松崎良太、青井一暉	高岡テクノーム 大展示場						
	2014/2/27～ 2/28	第一部 デザイントレンド速報「メゾン・エ・オブジェ2014、アンピエンテ2014にみるデザイントレンド情報」 第二部 商品開発ミーティング、企業見学	講師:桐山登士樹(総合デザインセンター・デザインディレクター) デザイナー:天野芳美、石井聖己、デザインスタジオモノクロ、中村洋介、松山美歌 訪問企業:(株)能作、中越レース工業(株)、小野沢家具店、YKK AP(株)YKKセシターパーク	富山県産業高度化センター 2F会議室							
	デザイン アドバイザー事業 新川・富山 相談窓口の開設	企業の商品開発や、PR、各種情報にいたるまで、幅広くサポート。 「商品開発についてアドバイスしてほしい」 「企業の魅力や商品を効果的にPRしたい」 「商品開発の補助事業を知りたい」といった様々な要望をもつ県内企業、個人事業者の方々対象に個別相談に応じる デザイン相談会を開催	【新川地区】 相談日時:毎月第1金曜日 13:30～16:30 【富山地区】 相談日時:毎月第2・4金曜日 13:30～16:30	富山県魚津総合庁舎 4F405会議室 富山県総合情報センタービル 2F第5会議室							
	プロジェクト推進事業 デザイン コーディネート事業 2013/12/3～ 2014/2	富山県内のデザイン開発支援策として、企業にデザイナーを派遣し、デザインを軸に魅力ある商品開発プロジェクトを発起させ、県内のデザイン開発を推進する	派遣先企業①:北陸エステール協同組合(小矢部市) 派遣デザイナー:宮田里枝子 (デザイントーク(株)代表取締役、アートディレクター) 派遣先企業②:中越レース工業(株)(砺波市) 派遣デザイナー:デザインスタジオモノクロ 派遣先企業③:(株)松井機業(南砺市) 派遣デザイナー:廣田尚子(有)ヒロタデザインスタジオ代表取締役								
2 首都圏デザインマンツーマン支援事業	展示会 2013/9/12～ 9/24	メイド・イン・ヤマのデザイン展	参加企業:usuworks(株)、(株)梅かま、(株)大越仮壇、(株)織田幸銅器、KANAYA、(株)かんでんエルファーム、(株)キミオファジヨン、三協立山(株)三協アルミ社、新光硝子工業(株)、(株)スギノマシン、(株)高田製作所、(株)タカタレムノス、中越バルブ工業(株)、中越レース工業(株)、(株)能作、北陸エステール協同組合、(株)松井機業、(株)リップセル、YKKファスニングプロダクツ販売(株)	東京ミッドタウン・デザインハブ (東京都港区)							
	基調講演 2013/9/12	「デザインとエンジニアリングのマッチングスキーム」	講師:山中俊治(東京大学生産技術研究所教授)	東京ミッドタウン インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター(東京都港区)							
	交流会 2013/9/12										
	企業プレゼンテーション 2013/9/13～9/14	デザイナーとのマッチングを目的とした出展企業6社による各社の商品や技術等についてのプレゼンテーション	プレゼン企業:新光硝子工業(株)、(株)スギノマシン、中越バルブ工業(株)、中越レース工業(株)、(株)能作、北陸エステール協同組合								
	デザインシンポジウム 2013/9/24	「デザインカンパニー・タカラレムノスとデザイナー達」	講師:高田博(株)タカラレムノス 代表取締役) 瀧川伸一(プロダクトデザイナー) 寺田尚樹(建築家・デザイナー)								
3 支援事業 販路開拓	富山デザインブランド調査・分析	「デザインとやまと」のイメージを全国にPRするため、より競争力のある商品づくりと戦略的な販売展開について調査・分析を行い、企業にアドバイスをするためのリーフレットを作成	専門家チーム: 青木昭夫(MIRU DESIGN代表) 中村真一郎(合同会社 総CEO / にっぽんてならい堂店長) 茂木新之助(株)大和バイヤー) 林口砂里(有)エピファニーワークス代表)								
	4 人材育成事業	ものづくり企業 デザイン活用セミナー 2013/7/10	「テクノロジーとデザインの融合で社会を創造する」	講師:石橋勝利(株)アクシス AXIS編集長)	富山県産業高度化センター 2F会議室						
4 人材育成事業	2013/8/9	「3Dプリンターブームは何なのか?3Dプリンターは本当に新産業革命のツールなのか?」 3D設備紹介/県内機関の導入設備比較紹介 設備見学会/ものづくり研究開発センターの3D関連設備の見学会	講師:原雄司 (株)ケイズデザインラボ代表取締役・3Dコンサルタント)	富山県工業技術センター 技術開発館							
	2013/9/12	「デザインとエンジニアリングのマッチングスキーム」	講師:山中俊治(東京大学生産技術研究所教授)	インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター(東京都港区)							
	2013/11/18	「高度技術を持つ企業を繋ぐものづくり、プロダクトデザイナーの挑戦」	講師:渡辺弘明(株)ブレーン 代表取締役)	新川文化ホール 104号室							
	2013/12/19	「クラウドファンディング ～中小企業の夢を実現する最新資金調達術～」	講師:松崎良太(きびだんご(株)代表取締役)	高岡テクノーム 大展示場							
	5 デザイン交流事業	デザインセミナー 2013/10/2	「特色ある地域のものづくりとデザイン」	講師:柴田文江(プロダクトデザイナー) 瀧川伸一(プロダクトデザイナー) 橋田規子(芝浦工業大学教授・プロダクトデザイナー) モレーラー:桐山登士樹(総合デザインセンター デザインディレクター)	ウイング・ウイング高岡 5F 503研修室						
5 デザイン交流事業	ナイトフォーラム 第163回ナイトフォーラム 2013/10/2	「デザイナー小林幹也の考えている事、実行した事」	講師:小林幹也(デザイナー)	KANAYAショールーム							
	デザイン講習会 2014/2/18	「これからの建築と建材」	講師:千葉葉(東京大学大学院工学系研究科教授・建築家) 赤松佳珠子(法政大学准教授・建築家) モレーラー:桐山登士樹(総合デザインセンター デザインディレクター)	富山県産業高度化センター 2F会議室							
6 情報発信											
7 越中富山お土産											
8 富山デザインウェーブ2013											
9 富山プロダクツ選定事業											



■発行日／2014年3月28日 ■企画・編集／オファー編集部 ■発行／総合デザインセンター 〒939-1119 富山県高岡市オフィスパーク5番地
TEL.0766-62-0510 FAX.0766-63-6830 ホームページ <http://www.toyamadesign.jp/> ■編集長／桐山登士樹 ■編集／玄千賀子
■アートディレクション／株式会社 Catch M ■デザイン／株式会社 Catch M ■ライター／沖野由佳(株式会社 Catch M) ■印刷・製本／能登印刷株式会社

富山の優れた工業製品の紹介をしています。 富山プロダクトHP <http://products.toyamadesign.jp/>